

# 第8回 下水処理場の仕事①

水をきれいにするのは微生物でしたね。  
下水処理場にいる人たちは、微生物たちが働きやすい（住みやすい）環境を造ってあげることが仕事なのですが、いったい何をしているのでしょうか？

- ① 微生物に空気を送る機械(送風機)や、水をくみ上げるポンプ、配管などの点検・整備
- ② 故障や異常をすぐに見つけるための計器や水質の監視
- ③ 汚泥の処理
- ④ 流入水・放流水の水質検査・汚泥の検査
- ⑤ 処理施設の清掃(こげや虫などが発生したり、水が詰まったりしないように手入れします)
- ⑥ 放流先の海や川の水質調査、悪臭・騒音などの調査

などがあります。どんなものが、写真や絵で紹介していきますね。

## 点検と整備



送風機の点検



水処理の点検

## 送風機室では・・・



空気を送る機械 (送風機)



風を起こして  
空気を送り込むよ。

飛ばされる～

下水処理場には、ポンプと配管がたくさんあります。また、水を送るポンプ以外にも、空気を送る送風機もあります。これまでもお話ししてきたように、空気は細菌や微生物にとって必要なものでしたね。送風機が故障すると、これらは死んでしまい、水の浄化ができなくなってしまうため



壊れていないか、異常がないか毎日点検をしています。故障したものはすぐに修理したり、新しいものに取り替えたりして、水の処理ができるようにしています。



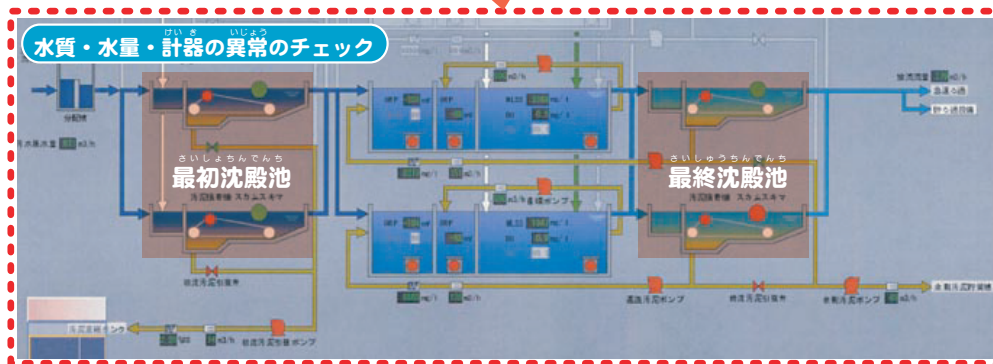
## 監視

## 監視室では・・・

中央監視室でポンプの状態や水の量、水質を確認して水の処理に異常がないかを24時間確認しています。



モニターには  
こんな画面が表示  
されているよ。



中央監視室には、水処理施設にある計器のデータがリアルタイムに表示されます。水質やポンプ、水処理施設、汚泥処理施設、空気量、水量などの情報がわかります。中央監視室に送るデータを測定している計器も、毎日異常がないかチェックしています。